

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391200074		
法人名	株式会社ハルス		
事業所名	グループホームはるすのお家みなみ		
所在地	愛知県名古屋南区明円町210-1		
自己評価作成日	平成27年2月20日	評価結果市町村受理日	平成27年5月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市中区百人町26 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成27年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・日中は玄関やリビングの施錠してないので、開放的な空間となっています。</li> <li>・オープンキッチンになっており、食事作りの参加、お茶を入れたり、コーヒーを入れたりができるようになって います。</li> <li>・日中は皆さんリビングで過ごし、会話が飛び交い穏やかな良い雰囲気のホームです。</li> <li>・その人らしく生活を送って頂けるように支援をしています。</li> <li>・独自のブログがあり、全員写真、コメントを載せるようにしており好評です。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念に基づいた支援を目指し、職員間で話し合いの機会を持つことで、情報を共有し同一の支援に繋がっている。利用者がより良い環境のもと、生活リズムを大切に穏やかでゆったりとした生活が出来るよう支援している。利用者を一人にしないよう声かけするなど、コミュニケーションを図り、時には傾聴に重きを置き利用者の思いの把握に努めている。地域の夏祭りに参加したり、近隣の喫茶店や駄菓子屋を利用することで地域との交流が図られている。また、民生委員からは、地域の独居高齢者との関わり方の相談等を受けることもある。管理者は日々、家族や職員、時には地域の人々の声に耳を傾け、些細なことでもきちんと受け止める体制作りを考えている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に説明しており、また会議、勉強会の時に復唱し、共有してケアに実践できるように話し合いをしている。	法人とホームの理念は玄関に掲示され、月1回の会議において唱和されている。いたわりの心、共に生活することを基本に置き、日々のケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加しており、町内会主催の行事に参加している。町内会の方々が、日舞、フラダンス、大正琴の演奏会など地域との交流がある。	夏祭りや地域行事に参加している。天気の良い日には散歩に出かけ、挨拶を交わし馴染みの関係となるよう努めており、近隣の駄菓子屋や喫茶店にも出かけている。地域の秋祭りには、子供獅子舞や山車がホームの近辺まで来るので、一緒に見学している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員より相談を受けるので、その都度対応をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況、取り組み状況、今後の行事予定等、報告をしています。またその場で出た意見は、日々のケアでできるものは、反映させるよう努力をしている。	会議では、課題を設け参加者から意見を出してもらっている。参加者同士意見交換を行い、そこから出た意見や要望に対しては、その場で答えたり日々のケアでできることは速やかに実践している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の手続きや提出書類は期限までに提出するように連携に務めている。催し物の依頼があれば協力しています。認知症の講習会、保健所の講習会に職員が参加している。	区役所の介護保険課へ利用者に関係することで手続き等相談したり、アドバイスをもらうなど協力関係は構築されている。介護福祉士祭りでは、作品の展示をしている。また、外出時には、車イスを借りることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜勤者が一人になる時以外は施錠をしておらず、伸び伸びと生活が送れるようにしている。勉強会、講習会に参加し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行っていない。やむを得ず身体拘束を行う場合は、「緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書」をもとに家族に説明し同意を得ている。また、「身体拘束解除目標検討会」を開き、拘束の内容全てを記入して全員で把握し、1日も早く解除できるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング、勉強会、講習会等に参加しており、職員同士注意をしようようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について、順次講習会を受けており、必要性について話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族が不安を持たないように、十分な説明と理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望や意見は来所時に面接して聞いている。遠方の家族には郵便物を郵送する際に意見書を同封し返信して頂いております。意見要望は会議の時に話し合い反映させている。	訪問時や運営推進会議の時に意見や要望を聞いている。「はるす通信」には、利用者の日常の様子や外出時の写真を記載し、コメントを書き家族に送付している。意見書と返信用封筒も送り、意見や要望を聞けるように配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議は月1回定期に行っており、本社会議の報告もします。また会議で出た意見、提案を本社会議で報告し、反映できるようにしている。	管理者は日常の会話の中で意見や要望を聞き取っている。毎月のケア会議で、管理者は介護の統一やサービスの向上に努めたり、職員の要望や提案は本社に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自がやりがいを持って働けるように、給与や資格手当等の見直しがあり、向上心を持って働けるように職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量に合った社内研修・社外研修に参加し、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現場研修の参加の機会があり、相互訪問の活動を通して、サービスをの質の向上させる取り組みをしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話をする中で、本人の困っていること、不安なこと、要望を聞き出し安心して生活を送れるように、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていること、不安なこと、要望に耳を傾け、安心して頂けるように関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ほんにんと家族が、その時まず必要としている支援を見極め、色々な面で相談対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護理念でも、生活を共にするを掲げており、同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在の状況を伝えたり、相談をしながら共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にしてきた馴染みの人や場所は、話をする事で関係が途切れないように支援に努めている。近くの喫茶店は事業所設立以来親しくしてもらい、利用者も立ち寄るのを楽しみにして、憩いの場となっている。	馴染みの人への電話や手紙を職員と一緒にやっている。入居してから馴染みになった喫茶店や駄菓子屋にも出かけている。馴染みの美容院や希望の場所へは家族の協力のもと出かけたり、ホームでも個別支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立しないように関わり合い支え合えるように支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人・家族から相談依頼があれば、必要に応じて支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向に築いた時は申し送りノートに書いたり、会議で情報を共有をしている。困難な場合は本人本位に検討している。	家族から本人の趣味、嗜好の情報などを得ている。日頃の会話から本人の思いを汲み取る努力をしている。利用者の中には酒をたしなむ人、趣味の俳句作りを楽しむ人もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、ケアマネから今までの暮らし方や、サービスの利用経過を聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中で、身体の状態、有する力を見極め、職員で情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回見直しをしている。利用者の状態に合わせて随時見直しをしている。職員全員、本人、家族よりモニタリングを行い、現状に即した介護計画書を作成している。	本人や家族の意向を確認し、その人らしさを生かせるような計画書を作成している。定期的な見直し以外にも身体状況に応じて職員間で話し合い、見直しを行い現状に即した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき等を個別に記録し、会議・申し送り時に職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対して、通院、マッサージ、買い物、喫茶、食事会等柔軟なサービス多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	すぐ近くに地域の方々が集まる喫茶店があり、時々利用者皆で顔を出し親しくしてもらっている。地域の中で安全に楽しく生活が送れるように支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に説明をし、かかりつけ医か協力医にしています。協力医は2週間に1回の往診が有り24時間体制で連携している。定期的受診は家族にお願いし、突発的な受診は施設で同行している。隔日の訪問マッサージも受けています。	月に1回の眼科、月に2回の歯科往診がある。受診内容は随時家族に報告されている。協力医は24時間対応しており安心感がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の連携はありませんが、体調の変化があれば、提携医に連絡を入れ、適切な受診ができるようになっている。薬剤師も相談に乗って頂き、的確な指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリー・提携医より診療情報提供書を提出しています。面会に何度も出かけ、先生・看護師、相談員との情報交換や相談に努め、関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に医療行為が出来ない事を説明をしている。提携医、家族、職員と相談をしながら、出来る限りホームで生活ができるように支援をしている。	重度化して痰吸引、経管栄養など医療行為が必要になった場合の対応はできず、入院に伴い退去となる。将来的に職員の体制を整えば、本人、家族の希望に応じて看取りをしていきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを作成しており、勉強会・講習会に参加して不安の無いようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っており、非常食・オムツの備蓄もあります。隣の喫茶店や民生員に連絡をすれば、消防隊に連絡をしてくれるようになってきている。	10月の夜間想定訓練では消防署職員の指導による初期消化訓練を行っている。また設備機器の説明も行なわれており、職員は周知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士で、注意をしており、会議・勉強会で振り返り、誇りやプライバシーを損ねない声掛けをしている。	利用者の気持ちに寄り添いながら、親しみの中にも礼儀を忘れずに接している。特に排泄介助時の声掛けには気を配っており、対応について職員間で話し合うこともある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	伸び伸びと生活が送れるように支援をしており、本人が思いや希望を表したり、職員が察知して表現ができるように、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせ、希望に添って一日生活を送っています。忙しい時について職員とのペースになりがちですが、お互い注意をして、希望に添うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回理美容が来るのを楽しみにしています。寝ぐせを直したり、その日の着る服を本人と一緒に選んだり支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々生活の中で、食べたい物、好物を聞きメニューに取り入れている。食事の準備、調理、配膳、下膳、食器洗い等利用者と職員が一緒になって行っている。	利用者はできる範囲で食事作りに関わっている。ホットケーキや白玉などのおやつ作りも利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は一日通して、どの位なのか記録をしている。その人の状態に合わせて食事形態を考え、何が食べれるのか相談をして、栄養のバランスは常に考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛けをし、その人に合わせて歯ブラシ、スポンジブラシ、ガーゼ、うがい薬等工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は必ずトイレで行っている。個人の排泄記録があり、排泄パターン、習慣を活かして、声掛けをしたりして自立に向け支援をしている。	一人ひとりの排泄リズムを把握することにより、入居後に排便リズムが整ったケースもある。日中においては声掛けを促しトイレで排泄する利用者が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者の身体について勉強会を開いており、理解はしております。適度な運動、水分量、食事量等工夫をしています。提携医・マッサージの先生にも相談に乗って頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日置きに入浴しており、拒否のある方も工夫を凝らし出来る限り入っている。ゆっくり入りたい人にはゆっくりと入浴し、菖蒲湯やゆず湯等季節感も楽しんでいる。	浴室は手すりが多く、浴槽の出入りがスムーズにできる。拒否のある人には根気良く声かけをしてタイミングを見計らい入浴をすすめている。清拭や部分浴の対応に変更する人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時の状況に合わせて、休息している。日中の活動の見直し、布団を干したり、シーツの洗濯等安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の管理をスギ薬局が行っており、気をつけなければいけないところ、症状変化の確認の指示がある。薬票があるので、薬の目的、副作用、用法や用量は目を通してしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を把握し、その力が発揮できるように支援をしている。晩酌をしていた人は夕食時にお酒を飲んだり、絵の好きな人は絵を描いたり、中庭でお茶を飲んだりと楽しく生活を送っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候の良い日のは散歩に出かけ、行けない時は日向ぼっこをする。徒歩で近くの喫茶店、タクシーでアピタやイオンへ外出、年2回小型バスで遠出をしている。	ほぼ毎日散歩をしており、近隣の喫茶店が憩いの場となっている。春にはイチゴ狩り、花見が恒例行事となっている。家族が訪問した際に墓参り、外食に行く利用者もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の日用品を買う際には、お金を渡し払ってもらいます。お釣りは有りましたか？確認の声掛けをします。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にかけてられるようになっており、かけて欲しいと依頼があれば対応をしている。手紙もやりとりができるように支援をしている。宛名も間違いがないか一緒に確認をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンオープンキッチンになっており、調理の時もリビングにいて様子が見えるようになっている。外出で撮った写真を飾ったり、お花を飾ったり、雛飾り、五月人形等飾り、季節感も出している。	玄関正面の雛人形、五月人形飾り付けは季節を感じる事が出来る。居間の窓は大きく日差しが入り明るく室温も適切である。壁には利用者の作品や外出先での記念写真が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやサイドテーブルを置き、独りで過ごしたり、気の合った者同士過ごせるようにしている。中庭の花を見たり、水をやったりと思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人や家族と話し合い、使い慣れた物や好みの物、安心できるものを入れて頂いている。居室は本人が一番安心できる場所となっている。	自宅で使用していた思い出のある筆筒、鏡台、仏壇などの持ち込みがある。家族写真、小物が飾られ、利用者が落ち着いて過ごせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、廊下、浴室、トイレ等は手すりをつけ、安全に生活ができるようになっている。エレベーターもあるが、階段を登れる人は階段を使用している。		